

## 飯豊調査—池上先生ご参加

関 繁 雄

昭和55年8月5日(火) 晴れ

この日、尾崎先生と曾野木の高橋庄一さん宅に行き、飯豊調査の車に同乗させて貰うことにする。

小国町赤芝ダムより右折、玉川の本流沿いに山に向かう。ほどなくうっ蒼と林に囲まれた飯豊山荘に着く。本隊に遅れる事一日。宿の主人に聞くと、今朝5時起きして全員出発とのこと。少時休憩して本隊を追う。

宿を出ると、もう急な坂道。階段と同じ。フウフウ息が切れ汗が流れる。75kgの高橋さんは高血圧でこの外苦しそう。八百米迄一気に登る。だが周辺の自然の変化は、目を見張るばかり。キタゴヨウ、オオコメツツジ、ミヤママコナなど高めの山の植物が目に見え込んでくる。五郎清水で昼食。

疲れた。だが休めない。昼食終るとすぐ行動開始。梶川峰1,692米に着いた時は、もう暗くなりかけていた。本隊はまだ先か?その時ワーワーと喚声。見ると何んと近くに本隊がテントを張っているではないか。これには吃驚。そして安堵。大急ぎで駆け寄る。

ヤアヤア、ご苦労さん、とお互無事を祝す。

池上、石沢先生外じねんじょの人達14名と学生さん3名となる。

8月6日(水) 快晴

朝七時頃朝食を摂り出発。ほどなく扇ノ地紙1,880米に着く。ここは杵差岳より連なる飯豊の銀座通り、その眺望の素晴らしさは筆舌に尽し難い。南東に北股岳、本山がガスの晴れ間に見える。遂に飯豊に来たのかと感無量。

エゾイブキトラノオのピンクの穂が一杯風に波打ち、ミヤマキンポウゲ、シラネニンジン、ハクサンボウフウ、ヨツバシオガマ、ニッコウキスゲ、アオノツガザクラ、タカネマツムシソウなどが見渡す限り咲き乱れている。勿論飯豊を象徴するイデリンドウも、ああこの景観私は一生忘れまい。

門内岳で昼食。北股岳、梅花皮岳まで一気に踏破、与四太郎の池近くにテントを張る。夜は冷え寒い。

8月7日(木) 快晴

昨夜あれ程外は寒かったが、テントの中は熱し。今朝は霜が降りていたと関省吾さん。

今日は烏帽子岳2,018米まで行くが、これにて今回の調査は終り引き返すとのこと。

私は尾崎先生、高橋さんと烏帽子周辺調査。更に200米程本山方向へ行くと新潟県側斜面に雪渓あり、廻りにハクサンイチゲの群落。白い花が雪に負けじと咲き誇る。ここにて私達は引き返す。池あり昼食を摂る。所が何んとその

脇のやや暗き所にキヌガサソウ、オオレイジンソウの大群落があり大感激。食事終って調査。時間の経つのも忘れる。終って昨日のキャンプ場へ戻る。

夜星美し。無明の虚空にこぼれるばかりの星屑に感動。高橋さん人工衛生初めて見たと喜ぶ。

8月8日(金) 快晴

水場で3日振りに髭を剃り気分よし。

ここにフキユキノシタ、アラシグサ、エゾシオガマを見る。池上先生に云うと、エゾシオガマはトモエの白化品ではと云わる。

朝食後飯豊をバックに写真を撮り移動。

梅花皮岳2,000米に登る。梅花皮小屋水場でオニシモツケ、ミヤマドジョウツナギ、ヒラギシスケを撮る。後者二種は初めてだ。石沢先生、池上先生と一緒に教えて戴く。

センダク平で昼食。ガンガン照りの中昼寝。

次に北股岳2,024米に登る。峽彩会の鳥居あり、これらを選びあげるのに苦労したとどなたか云わる。

次に門内岳を目指す。白崎先生がシロウマアサツキがあるよと云う。坪谷さんが早速撮る。よく出来たら皆さんにやるよとパチパチ。

今夜の食当は尾崎、池上先生と姫河原さん。私もお手伝。丁度落日。尾崎先生この雄大なチャンスを逃さず撮る。胎内川、阿賀野川、東港の発電所が薄暮に浮ぶ。池上先生が日が落ちると粟島の日本海一の灯台の光が見えると云われた。その通り。何だか新潟が懐しい。

8月9日(土) 快晴

門内小屋キャンプ場は今日も快晴。安達太良山・鳥海山が雄大に雲海に浮ぶ。今日は下山。嬉しくも悲し。朝食の残りものをお握りに。小さいの三つ私。大きい海苔巻き三つ石沢先生。雲海をバックに全員最後の写真。

下山始む。扇の地神着。途中岩場にコキンレイカ、ダイモンジソウあり。ここで丸森尾根隊と地紙尾根隊に分る。私や尾崎・池上・石沢先生は前者。ササ原あり。池上先生がチシマザサの花を取り説明。さらにキソチドリ、ホソバノキソチドリの見分け方もご説明あり。

地神北で銀座通りと別れて丸森尾根へ。

棒フリで昼食。坪谷さんの添書つきの食糧袋あり。女子大パーテがテントを張ると来る。小林・石沢先生百米おきに植生取らる。どんどん下り、眼下に飯豊山荘を俯瞰する所ではもう暗し。漸く山荘着。すぐ風呂。イガッタ。